

バイ *Babylonia japonica* (Reeve)

## 【選定理由】

本種は内湾から湾口部にかけての潮下帯砂泥底にすむ。県内では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種は1960年代には多産し、バイ籠で採捕されて食用に供されていた(愛知県科学教育センター,1967;豊浜漁協聞き取り調査)。しかし、急速に減少し、三河湾湾口部、伊勢湾知多半島沖では死殻さえ稀であった(木村,1996;木村,2000)。その後、2000年代半ばより渥美外海でトロール漁船によって生貝が水揚げされる事があり、回復傾向が確認されている。伊勢湾三重県側では本種を対象とした漁業も行われるようになった。それに対して愛知県側では、伊勢湾湾口部から渥美外海で底引き網漁によって混獲されるが、その頻度も低く、個体数は少ない。絶滅の可能性が高い種であると評価された。



南知多町豊浜沖(トロール漁), 2019年8月8日, 木村昭一採集

## 【形態】

殻長約70mmの卵形の貝で、殻は厚く平滑。殻表には褐色の斑列があるが、殻表が厚い褐色の殻皮で覆われる個体では斑列は不明瞭になる。蓋は革質で厚く、殻口を全てふさぐ。

## 【分布の概要】

## 【県内の分布】

上述したように県内の内湾域の潮下帯では、ほとんど生貝が採集されない。伊勢湾湾口部から渥美外海で底引き網漁によって混獲されるが、その頻度も低く、個体数は少ない。

## 【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、国内では北海道南部以南～九州に分布する(山下,2012)。

## 【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

## 【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような生息環境の悪化のほか、本種については防汚剤に含まれる有機スズ化合物に起因する雌の雄化(インポセックス)による個体数の減少が報告されている(堀口,1998)。現在有機スズ化合物が含有する防汚剤は製造中止されている。

## 【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

## 【特記事項】

水産資源保護協会(1996)では希少にランクされ、葉山しおさい博物館(2001)では相模湾の個体群が消滅にランクされている。

## 【引用文献】

堀口敏広,1998. インポセックス 巻貝類における雌の雄化現象. 海洋と生物, 117: 283-288.

木村昭一,1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第35報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.

木村昭一,2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18-20.

水産資源保護協会,1996. 軟体動物. 日本の希少な野生水産生物に関する基礎資料(Ⅲ), 90pp.

葉山しおさい博物館,2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏,1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

山下博由,2012. バイ, p. 72. in: 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

(木村昭一)